

# 病害虫防除所情報 第2号

令和4年6月1日  
山梨県病害虫防除所

## 【ブドウ晩腐病の防除対策について】

### [発生状況及び今後の見通し]

1. 昨年、巨峰・ピオーネ等を中心に発生量が多く、越冬菌の密度は高いと予想される。
2. 気象庁5月26日発表の1か月の予報（5月28日～6月27日）によると、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、降水量は平年並か多い見込みである。病原菌は雨水で飛散・伝播するため、降雨が続くと感染に好適な条件となり感染が助長されるので、以下の防除対策を徹底する。

### [防除対策]

1. 伝染源となる胞子は、雨水とともに飛び散るので、感染しやすくなる第1回目ジベレリン処理後（落花直後）に、直ちにロウ引きカサを掛け、雨水を果房に当てない。（図1）
2. 摘粒が遅れる場合は、感染を防ぐため、先に仕上げのカサを掛ける（降雨時は、感染リスクが高まるため、出来る限り摘粒作業は行わない）
3. 出来るだけ袋かけ栽培を行い、果房に雨水を当てない。（袋は再利用せず、新品を使用する）
4. 防除暦に準じて薬剤散布を徹底する。散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前に散布する。また、天候不順やカサ・袋かけが遅れる場合は追加散布を実施する。
5. 着色期以降は、ほ場巡回を行い、二次伝染源となる発病果粒は除去し、園外に持ち出す。（図2）



図1 早期にロウ引きカサ掛けを行う



図2 収穫期の発病果房  
（発病果粒は除去する）